SENKO CSR REPORT 2013

環境・安全・社会への取り組み

特集／チャレンジセンコー

CHALLENGE SENKO

センコーの活動と新たな挑戦

「Ecoイノベーション」の成果とこれから

共同配送でCO_2排出削減を目指す

危険品輸送“センコー流”の取り組み

クレフィール湖東から広がる交通安全文化

コーポレートスローガン

Moving Global

物流を超える、世界を動かす、ビジネスを変える。

Contents

ごあいさつ	代表取締役社長　福田 泰久	02
経営とCSR	経営目標とCSR方針	03
	コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス	05
	事業概要	07
特集 チャレンジセンコー	[Ⅰ] 第Ⅳ期環境マスタープラン総括	09
	[Ⅱ] 安全品質「危険品輸送」	11
	[Ⅲ] エコ物流「共同配送」	13
	[Ⅳ] 社会貢献「安全教育」	15
環境報告	環境方針	16
	環境影響の全体像	17
	環境目標と成果	18
	「Ecoイノベーション2012」取り組み報告	19
	車両・船舶への取り組み	20
	物流施設・事務所での取り組み	21
	物流サービスでの取り組み	22
安全報告	安全活動方針	23
	安全管理の取り組み	24
	安全教育・技能向上の取り組み	25
	安全活動の評価・達成状況	27
社会報告	従業員とともに	28
	お客様とともに	31
	地域とともに	32

■編集方針および報告の範囲

センコーは、2005年度より3回「環境・安全報告書」を発行してきました。2008年度からCSR推進委員会を設置し、従来から経営の最重要事項と位置づけていました「環境保全」「交通安全対策」を含めたCSR活動の取り組み領域を明確にしたことを契機に「CSR報告書」として発行しています。

編集方針は次の通りです。

(1) センコーの特徴的なCSR活動を「特集」として紹介しています。

(2) 記載対象範囲は、センコー(株)ならびに一部グループ会社の活動も含みます。

(3) 記載対象期間は、2012年4月～2013年3月までの事業活動ですが、一部2013年4月以降のものも掲載しています。

(4) 環境の報告は、環境省の「環境報告ガイドライン(2012年版)」を参考にしています。

CHECK! その後のレポート

このマークの掲載されている箇所は過去の取り組みの成果や進捗などを継続的に報告しています。

ごあいさつ

創業100周年に向け、「国内外から信頼される流通情報企業」を目指す取り組みを始動させます。

2012年度の日本経済は、公共投資などの復興関連需要やエコカー補助金などの政策効果により、当初は生産活動や個人消費などに緩やかな持ち直しの動きが見られましたが、その後は円高の長期化や海外経済の減速による輸出の減少、政策効果の剥落による個人消費の減少などの影響もあり、厳しい状況が続きました。しかしながら、昨年末には景気は底を打ち、緩やかな回復傾向にあります。また、12月の政権交代以降、政策期待を背景に円安・株高の傾向が続いております。

物流業界におきましては、生産活動や個人消費の緩やかな持ち直しを受けて、取り扱い物量は改善傾向にありましたが、その後の輸出や個人消費などの落ち込みにより、依然厳しい状況が続いております。

このような環境の中、センコーグループは2010年4月にスタートさせた「Moving Global」をコーポレート・スローガンとする、中期経営3カ年計画の最終年度として、国内外で積極的な経営を進めてまいりました。

CSR活動につきましては、「法令順守」、「環境対応」、「安全重視」の3つを柱と位置づけ、法令遵守では、すべての従業員が公益性の高い事業に携わっているとの意識改革を進め、適法性と透明性の確保に努めてまいりました。

環境活動では、環境マスタープラン「センコーEcoイノベーション2012」において、燃料使用量とエネルギー使用量の年次1%削減目標を3年連続で達成するなど、大きな成果を収めることができました。

また安全活動では、すべてに優先する安全の維持に向けて、交通事故、労災事故の一層の削減のために、グループが一丸となった危険予知活動を展開するなど、社会的使命を果たすため継続的な活動に取り組んでまいりました。

ところで、センコーグループは2016年に創業100周年を迎えることから、当社グループが目指すべき企業像を「国内外から信頼される流通情報企業」と定め、今年度から2016年度までの4年間の中期経営計画をスタートさせております。

グループ中期経営方針では引き続き、コンプライアンスを重視した「環境対応」、「安全活動」、「健康活動」を推進してまいります。

今後も、センコーグループを取り巻くステークホルダーの皆様から、当社の事業活動について評価をいただけるよう、CSR活動のさらなる充実化を図り、健全な企業活動を目指してまいります。

センコー株式会社
代表取締役社長　CSR推進委員会委員長
福田泰久

企業目標とCSR方針

国内外から信頼される、流通情報企業へ

私たちセンコーグループは、2016年に迎える創業100周年に向けた「2013-2016年度 中期経営計画」を2013年度からスタートし、事業活動を通じて、関わるすべてのステークホルダーの皆様から信頼される企業を目指しています。
社会の信頼を受けながら、お客様企業の調達から販売まで、情報を駆使する中で、物流・商流を含めて、グローバルに最適な流通サービスを提供していきます。

私たちは、事業活動を通じて、関わるすべてのステークスホルダーから信頼される企業を目指します。

100th

- 1 国内外のお客様、国内外のパートナー（協力会社、提携先）
- 2 国内外の投資家・株主
- 3 社会
- 4 従業員（社員、パート・アルバイト）とその家族

流通情報企業とは、「お客様の調達から販売まで、情報を駆使する中、物流・商流を含めて、グローバルに最適な流通サービスを提供する企業」を意味します。

『Moving Global』のもと企業価値を向上していきます

コーポレートスローガン『Moving Global』を掲げ、高品質でコストパフォーマンスの高いサービスをグローバルに拡大していきます。5つのグループ中期経営方針に則り、物流・商流事業の業容拡大に努めるとともに、社会から信頼される企業活動によって企業価値の向上を図っていきます。また、「CSR（企業の社会的責任）経営」を経営方針の1つとして、コンプライアンスを重視した環境・安全・健康の取り組みを推進します。

コーポレートスローガン

Moving Global

物流を超える、世界を動かす、ビジネスを変える。

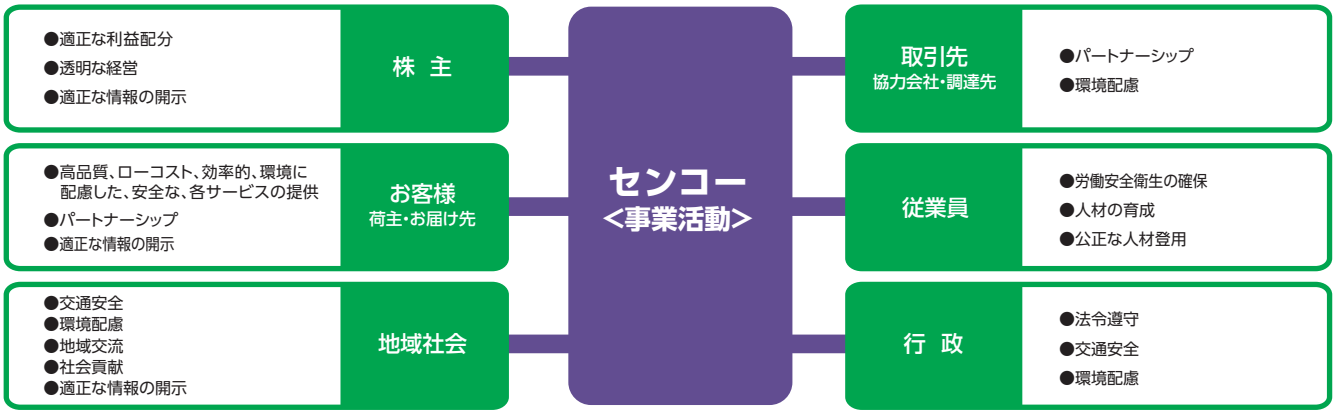
中期グループ経営方針

1. 総合・一貫したサービス提供に向け、物流・商流事業の業容を拡大するとともに、ものづくりへも挑戦する。
2. お客様に一層信頼される、高品質でコストパフォーマンスの高いサービスを形成する。
3. グループ人材（グローバル人材、社内起業家含む）の育成・確保のため、人材教育・採用活動を強化する。
4. コンプライアンスを重視し、環境・安全・健康の先端企業を目指す。
5. 財務健全性の確保に重点を置いた財務施策を推進する。

CSR「企業の社会的責任」の強化に努めます

すべてのステークホルダーから信頼していただける企業風土を創造するために、センコーグループでは、「環境対応」、「安全活動」、「健康活動」をCSR経営の柱と位置づけた活動を続けています。「中期経営計画」では、社会的ニーズに呼応する以下の取り組みに注力。CSR推進委員会を中心に、全従業員が高い意識を持って取り組むことで、事業を通じた社会貢献を果たしていきたいと考えています。

センコーの事業とステークホルダー



センコーの重要施策

「環境対応」の推進

物流業が環境に対して果すべき役割は多大であると認識し、数値目標を掲げてCO_2削減と省エネルギー施策、グリーン物流を推進。環境先進企業を目指した「第V期 環境マスタープラン」を推進します。

特集企画P13～14、P16～22をご覧ください

「安全活動」の推進

「完全0災職場の確保」の実現に向けて、車両事故・労働災害の削減目標を設定し、安全マネジメントシステムのPDCAサイクルを通じて、リスクアセスメントを積極的に推進します。

特集企画P11～12、P23～27をご覧ください

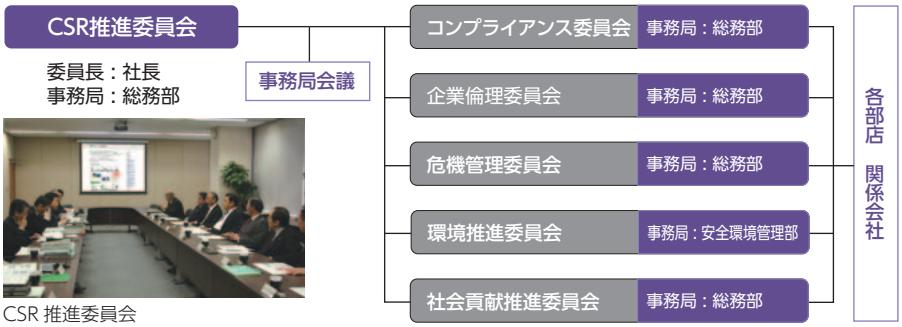
「健康活動」の推進

健康障害予防のための職場改善を進め、セルフケアなどの個人の健康増進の積極化と産業医や看護職の配置などの支援体制の充実で、健康リスクを低減させる管理体制の整備を推進します。

P28をご覧ください

CSR経営の推進体制

CSR推進委員会は「コンプライアンス」「企業倫理」「危機管理」「環境推進」「社会貢献推進」の各委員会で組織されています。社会的責任の領域を明確化し、活動の充実と深化を図っています。各委員会で立案された内容を審議して年度活動計画などを決定、また各委員会の指導を行う役割を果たしているのがCSR推進委員会です。

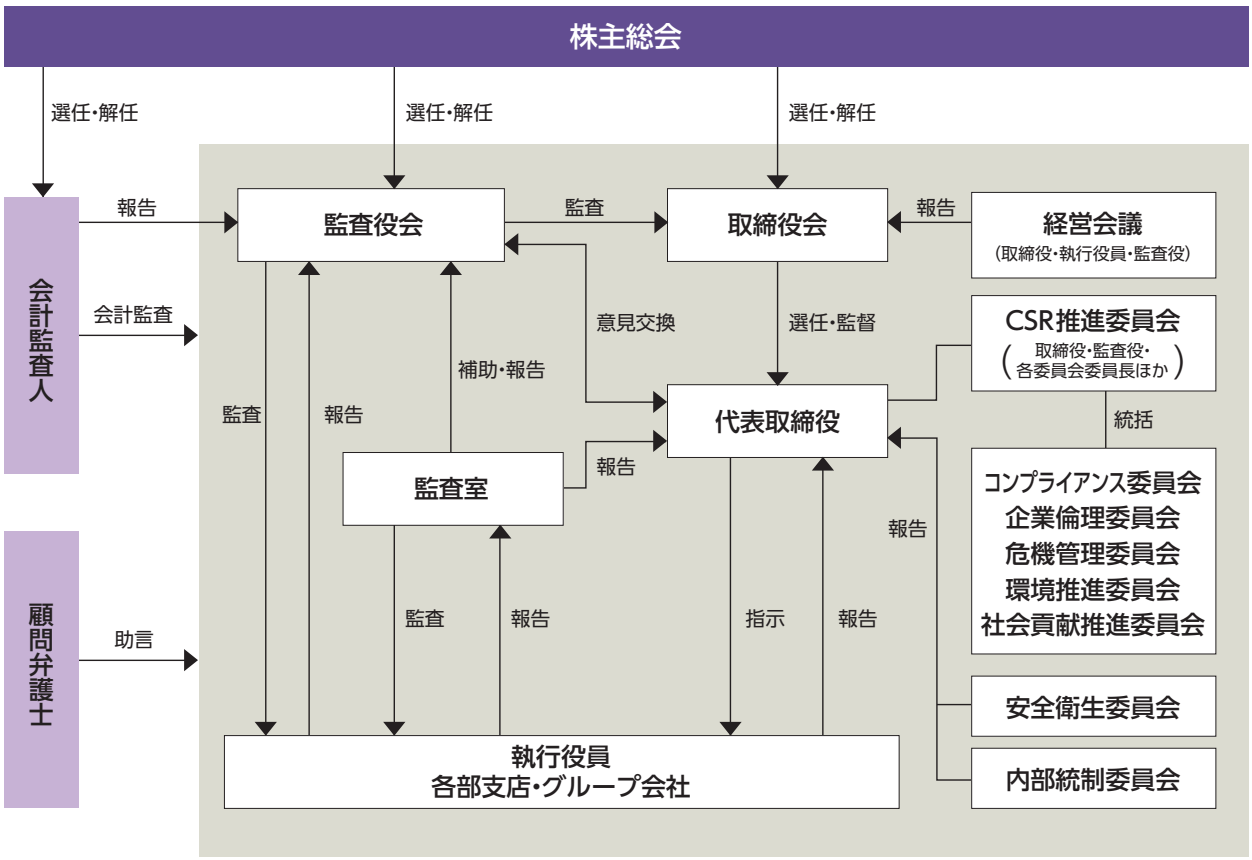


CSR 推進委員会

コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス

コーポレート・ガバナンスの考え方と体制

センコーグループは公共性の高い物流事業を行う企業として、コンプライアンス（法令遵守）に徹した事業活動こそが、企業の社会的責任を果たし、信頼を得ることにつながると考えます。そのため、コーポレート・ガバナンスを経営の最重要課題の1つに位置づけ、体制の強化に努めています。



【業務執行と監査・監督】

①当社の取締役会は、毎月1回以上開催しており、法令で定められた事項のほか、経営に関する重要な事項を決定するとともに、業務執行を監督する機関として位置づけています。また、取締役、執行役員および重要な使用人が適切かつ効率的に職務を執行するために、取締役会規程および職務権限規程を定め、権限と責任を明確にするとともに、執行役員も出席する経営会議を設置し、業務執行状況の検証を行い、より透明度の高い経営の実現を図っています。

②当社はグループ全体のCSR（企業の社会的責任）経営を推進するため、コンプライアンス、企業倫理、危機管理、環境推進、社会貢献推進の各委員会とそれを統括するCSR推進委員会ならびに安全衛生委員会および内部統制委員会を設置し、グループ全体のCSR経営体制を構築しています。

③監査役は、取締役会に出席し、取締役の業務執行を客観的立場から監視するとともに、監査室および会計監査人と連携し、子会社も含めたコンプライアンスの徹底を図るとともに厳正な監査を実施しています。

④当社は会計監査人と会社法に基づく監査契約および金融商品取引法に基づく監査契約を締結し、適宜会計に関する指導を受けています。

⑤監査室は、リスク対策などの状況の検証、業務運営の状況把握とその改善、適切な業務運営体制の確保を目的として、当社および当社子会社の内部監査を実施し、その結果を代表取締役および監査役へ報告しています。

コンプライアンス経営

誠実で公正な、法令を遵守し倫理にかなった事業活動を行う「コンプライアンス経営」は、企業が社会的責任を果たし、ステークホルダーから信頼を得る最も基本的なことです。センコーグループでは、センコーグループのすべての役員、従業員が当グループの社会的責任を深く理解し、企業活動のあらゆる場面において遵守すべき事項を「センコー企業行動規準」に定めています。

また、それを推進するために各委員会を設け、周知徹底と運用の充実を図っています。加えて、社内通報制度として「企業倫理ヘルプライン」を設けています。

リスク管理体制の強化

事業運営上で遭遇するいろいろなリスクに対しては「リスクマネジメントシステム」を構築し、万一の緊急事態が発生した場合は人命優先、物的損害（経営損失）の軽減、業務の早期再開、社会的信用の維持、地域社会への支援と貢献の観点からの対応策を実施する体制を敷いています。

適切なコンプライアンス（法令遵守）と社会的責任を遂行するために、2010年度の「リスク教本」策定に続き、2011年度は危険品データベースなどの構築に着手しました。また大規模災害に備えた物流情報バックアップセンターの運用を開始しています。

危険品管理システムの構築と運用

化学製品などの危険品輸送、取り扱いについては、「企業の社会的責任の増大」、「物流セキュリティ対策」、さらに「新たな化学製品類の出現」や「国際物流の増加」などを受け、2010年から「危険品データベース」の整備に着手しています。

詳しくはP11をご覧ください

リスク教本の運用

「リスク教本」は、センコーの「企業行動憲章（基準）」を具体的な行動につなげるためのもので、法令などの解説、管理ポイント、他社事例、および過去に発生したリスク事例を簡潔にまとめています。事業運営に潜む危険（リスク）を理解し、危機（クライシス）に発展させることのないよう管理を徹底させ、またこの教本を活用して従業員などへのコンプライアンス教育も充実させています。

災害に負けない物流情報バックアップセンター

センコーでは大阪にある通常の物流情報のデータセンターが万一停止しても、宮崎県のバックアップセンターで荷主企業様とのデータ交換機能を維持し、生産業務を継続するシステムを構築し、2010年から運用を開始しています。

詳しくはP31をご覧ください

個人情報保護の取り組み

集荷、発送の依頼などでお客様の個人情報を預かることが多い物流企業にとって、個人情報の保護は企業責務であり、そのための情報セキュリティポリシーを制定するなど、情報保護体制を徹底させています。

プライバシーマーク※の取得

センコー情報システム（株）、センコービジネスサポート（株）、センコー商事（株）では、2010年にプライバシーマークを取得しています。また、グループ会社である江坂運輸（株）、イヌイ運送（株）においても、2006年にそれぞれ取得済みです。

※個人情報の保護を適切に行うことができる事業者として認定された場合に付与されるマーク

ISO27001※の取得

情報セキュリティの強化を経営方針に掲げるセンコー情報システム（株）が、2009年に大阪事務所で認定取得後、東京・熊本・宮崎の各事業所でISO27001の取得範囲を拡大しています。

※個人情報だけでなく組織が保有するさまざまな情報リスクを適切に管理するためのマネジメントシステムの国際規格

センコーの事業概要

国内外から信頼される、流通情報企業へ

流通情報企業としてSCM※を支援・実現するために、ITを駆使したシステムで最適な流通ソリューションを提供。物流を超える、世界を動かす、ビジネスを変える、そして社会の発展に寄与する事業を展開しています。

※SCM(サプライチェーン・マネジメント):ビジネスプロセスの全体最適を目指す戦略的な手法・IT情報システム

センコーの主要事業

流通ロジスティクス事業

量販店や百貨店、専門店など、小売店向けの物流サービスを行う事業です。GMS(総合スーパーマーケット)をはじめ、ホームセンター、ディスカウントストア、ドラッグストア、百貨店、アパレルチェーン、スポーツアパレル、通販など、さまざまな流通業界の企業の物流を引き受けています。

住宅物流事業

住宅メーカーの製品を工場から建設現場へ輸送するサービスや、住宅資材メーカーの住宅資材の輸送などの物流サービスを行う事業です。大手プレハブ住宅メーカーをはじめ、壁材や床材から、窓枠、キッチンなど、さまざまな住宅資材メーカーと取引を行っており、近年ではソーラーパネルの物流も行っています。

ケミカル物流事業

プラスチックなどの原料となる樹脂やプラスチック成型品、加工品の輸送、自動車や機械などに使われる潤滑油の輸送に関する物流サービスを行う事業です。センコーは化学品メーカーの物流を創業時から行っており、長年のノウハウを活かして、ケミカル物流事業を拡大しています。

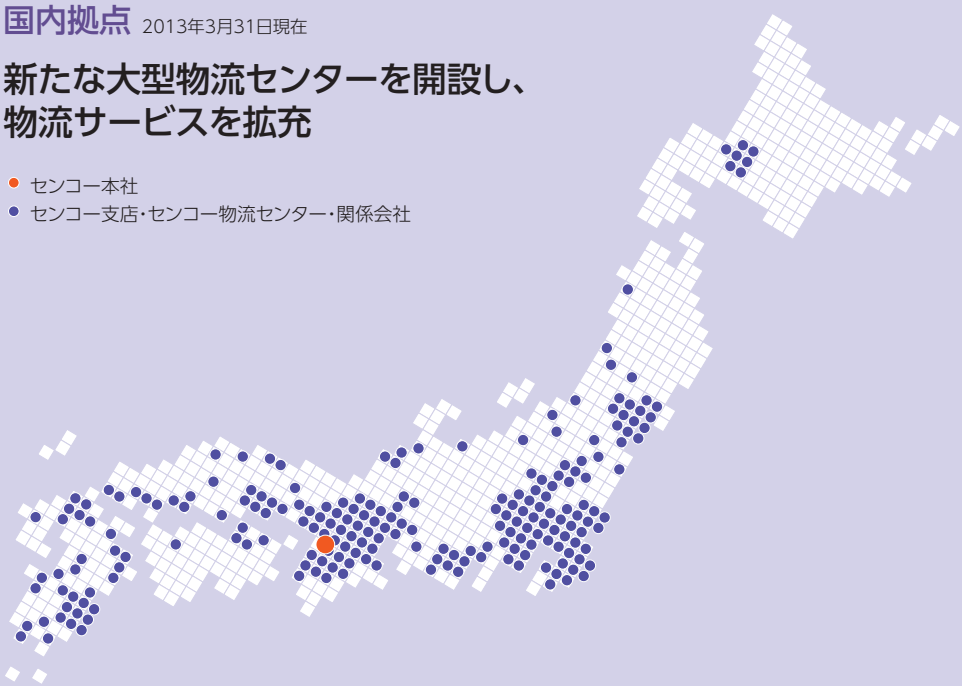
商事・貿易事業

商事販売、石油販売、貿易などを行う事業です。物流機器・資材、石油カードを利用した燃料の販売など物流に関する商材を販売するほか、日用品、包装資材、酒類などの卸売りを行っています。また、お客様の商材の輸出入、通関、国際間輸送まで一貫した貿易事業も行っています。

国内拠点 2013年3月31日現在

新たな大型物流センターを開設し、物流サービスを拡充

- センコー本社
- センコー支店・センコー物流センター・関係会社



札幌PDセンター (2013年4月稼働)

大門物流センター (2013年4月稼働)

北大阪PDセンター (2014年2月稼働予定/完成予想図)

会社概要 2013年3月31日現在(グループ会社合計)

商号	センコー株式会社(Senko Co.,Ltd.)
資本金	20,521百万円
創業	1916(大正5)年9月
設立	1946(昭和21)年7月
本社	〒531-6115 大阪市北区大淀中1丁目1番30号 TEL.06-6440-5155(代表)
代表者	代表取締役社長　福田 泰久
事業所	340カ所(国内外合計)
グループ会社数	75社
従業員数	8,889名
車両	3,240台
支配船舶	19隻
物流センター	221.1万㎡
URL	http://www.senko.co.jp

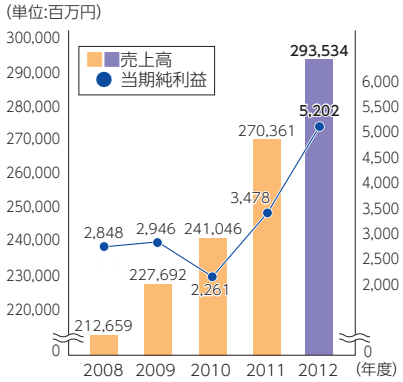
主要サービス

(売上高構成比)

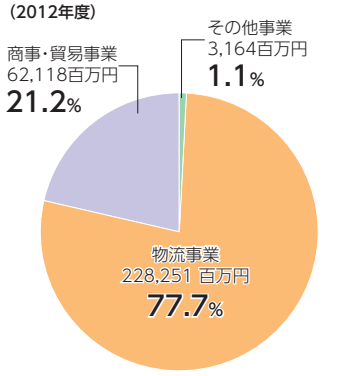
物流事業	流通ロジスティクス事業	26.9%
	住宅物流事業	20.9%
	ケミカル物流事業	14.9%
	その他物流事業	15.0%
商事・貿易事業		
その他事業		

センコーグループ事業データ

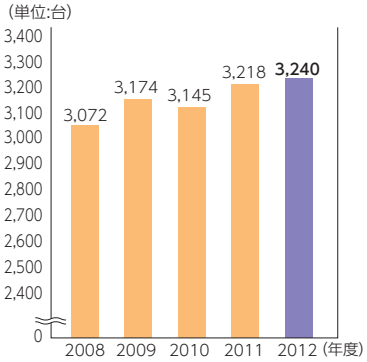
連結売上高／当期純利益の推移



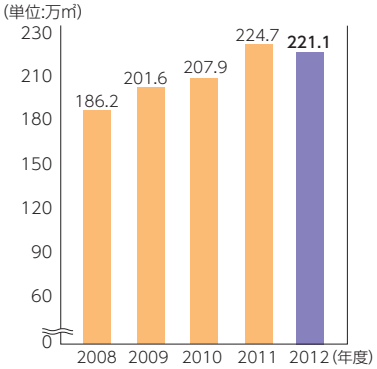
連結セグメント別売上高



車両台数(連結)



物流センター総面積(連結)



海外拠点 2013年3月31日現在

"世界"をネットワークする国際物流事業をさらに拡大

★ 海外事務所
● 海外代理店

蘇州物流センター

カザフスタン・シルクロードロジスティクスセンター
(2013年9月稼働予定)

主な海外代理店本店所在地

韓国／台湾／香港／シンガポール／マレーシア／インドネシア／ベトナム／タイ／フィリピン／インド／スリランカ／イラン／アフガニスタン／パキスタン／カザフスタン／モンゴル／ドバイ／ドイツ／ベルギー／トルコ／カナダ／メキシコ／ブラジル／オーストラリア／ニュージーランド

センコーは物流企業として環境に対し果たすべき役割を認識し、
2001年度から年次ごとの目標を掲げ環境負荷低減活動を継続しています。
第Ⅳ期(2010～2012年度)は特に、環境計画を「センコーEcoイノベーション2012」とし、
環境負荷を低減するさまざまな施策を実行。確かな成果を導くとともに、新たな中期経営計画につながる課題を確認しています。

2010～2012年度・中期環境計画 「センコーEcoイノベーショ

※新環境計画はP18をご覧ください

成果1 省電力 ▲20%達成!

「省電力取り組み35項目」のもと全社一丸の活動を進めています

センコーが独自に定めた「省電力取り組み35項目」を全事業所に展開して、照明の間引きなどの人的取り組みにはじまり、電力デマンドによるシステム管理、さらにはLED照明、太陽光発電の設備導入など、総力を上げて省電力活動に取り組みました。

その効果は大きく、売上当たりエネルギー使用量の20%削減(2009年度比)を達成しました。また、東日本大震災の影響で電力不足が懸念された2011年の夏期では、電力使用量の17.2%削減を実現し、節電要請に対応しました。

成果2 燃料使用量(輸送トンキロ当り) ▲5.3%達成!

燃費向上、グリーン物流の取り組み、低公害車の導入を加速させています

省燃費活動には早くから取り組んでいることもあり、人的取り組みによる燃費向上は難しい状況となっています。その状況の中で、低公害車の導入、省燃費タイヤの装着をはじめ、お客様と一体となったグリーン物流の推進による大型化・共同配送などの輸送効率の推進、モーダルシフト※の推進としての31フィート鉄道コンテナの導入といった設備投資を積極的に行った結果、トンキロ当たりの燃料使用量の5.3%(2009年度比)の削減を達成しました。

※貨物輸送を環境負荷の小さい鉄道・海運利用へと転換すること

CSR VOICE

“環境先進企業”を目指して 物流事業と融合させた環境活動を展開

取締役執行役員　安全品質環境担当　**森本 康司** ※2013年4月1日付で人材教育部長

センコーは「環境活動」を、企業体質を構築する重要な取り組みであるととらえています。安全、品質、人材育成もしかりです。目標をきちんと定め、組織全体で地道に取り組み、成果につなげていく、企業力はその中で培われていきます。

「センコーEcoイノベーション」は多くの成果を確認していますが、目標管理制度などによる個別目標に踏み込めたことが大きいと考えます。一例をあげるなら、省エネ活動ではセンコー流の「環境取り組み35項目」を設定しました。業界内外のさまざまな省電力施策を調査・評価して、効果標準値を導き全事業所に提示。その数値をもとに事業所それぞれの目標を定め、年次ごとに環境取り組みをステップアップさせていく仕組みです。物流環境大賞の受賞は主にこの点が認められたものです。

2013年度からスタートする新しい中期経営計画では、環境先進企業として、自社の環境負荷低減に努めるとともに、お客様や社会に貢献できるエコ物流をより推進。物流ロスを最小化する配送形態やLCC（ライフサイクルコスト）を考えた資材開発など、“環境”と“物流”を融合させたセンコーならではの提案を行ってまいります。

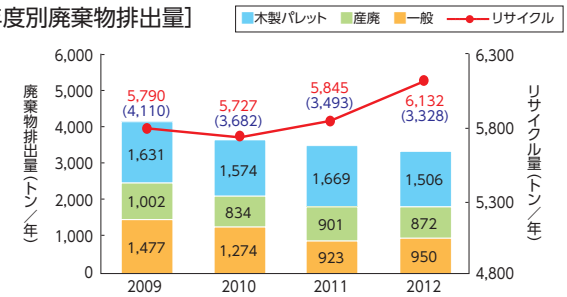
ン」を振りかえって。

成果3 廃棄物のリサイクル化 6,132トン!

廃棄物を分別し再生可能なものは積極的にリサイクルへ

古紙、ストレッチフィルムなどの廃棄物を対象項目として、年次3,500トン以下を目標としました。その結果、産業廃棄物処理量は確実に減少。一方で、リサイクル量は2010年度5,727トン、2011年度5,845トン、2012年度6,132トンと3年間で大幅に目標を達成しました。これは、事業活動から排出される廃材で再生可能なものは積極的にリサイクル化を推進するとともに、廃棄物についても分別や契約の見直しによって排出量を削減する「廃棄物リサイクルガバナンス」体制を確立したことによるものです。

[年度別廃棄物排出量]



成果4 受賞! 物流環境大賞

センコーの省エネ活動が各方面から評価されました

「Ecoイノベーション」は、2011年5月に一般社団法人日本物流団体連合会の「第12回物流環境大賞」を受賞しました。この受賞は省エネ活動における具体的な施策を設定し、目標の4倍以上の成果を得たことが評価されたものです。ほかにも、2010年にグリーン物流において輸送中のCO_2半減とフレコン※を使用しない「バルクコンテナー貫物流システム」の開発で「第7回エコプロダクツ大賞」、2011年には荷主企業様と共同で海上輸送へのモーダルシフトを積極的に実施したことで「エコシップ表彰」を受賞しました。

※粉末・粒体の荷物を保管・運搬するための袋状の包材

さらなるチャレンジをセンコーは続けます 特集「CHALLENGE SENKO」をご覧ください 次ページへ!!

CHALLENGE SENKO チャレンジ センコー 1

安全品質

センコーにしかできない技術やサービスで社会を動かす

「危険品輸送」事業の取り組み

危険品データベースを整備し、一元管理を行っています

「すべてに優先する安全」。これは、センコーの全事業の基軸となる考えです。特に化学品や高圧ガス、燃料など危険品輸送では、漏洩などの事故が発生すれば重大な環境汚染や労働災害につながりかねないため、万全の体制を構築しています。従来各現場で対応してきた危険品管理を一元管理するため、2010年から「危険品データベース」の整備に着手。取り扱う危険品の種類や物量、点検体制の社内ネットワークへの登録を完了しています。これにより、各現場、種目ごとの管理ノウハウを全社で共有できるようになりました。

また2012年3月から、管理状況を評価する自主点検の運用をスタート。安全環境管理部および監査室の巡視も併せて行う厳格な体制のもと危険品の取り扱いにおける安全を担保しています。

危険品管理システムの構築・運用の流れ

コンプライアンスチェック

危険品登録DB ／ 自主点検 ／ リスク対策

リスク低減活動

社内で危険品講習を実施、リスク低減に取り組んでいます

自主点検の結果から強化すべき項目を導き出し、現場の所長や職長を対象とした危険品講習を行っています。危険品の見分け方、種類ごとの法規制、混載規制、万一に備えた対処方法など、講習で得た知識を各現場に周知徹底させています。また、お取り引きの窓口となる営業職に向けても、基本的知識を習得する勉強会を実施しています。

物流形態の複雑化により、危険品としての取り扱いを求められる品目は増加しています。そんな環境にあって「危険品に該当するものを自ら認識し、適切な取り扱い、輸送、保管、荷役ができる」ための安全教育は非常に重要であり、より力を注いでいきたいと考えています。

危険品輸送の訓練風景

液体などの飛散を防止するフランジカバーを導入

ローリーテクニカル認定ドライバーを配置

毒劇物輸送訓練で、危険品輸送の“プロ”を育成

危険品の輸送や荷役には、ドライバーとしてのテクニックはもちろん、危険品に関する高度な知識が要求されます。センコーでは、独自の基準を設け「ローリー輸送テクニカルドライバー(TP)」を認定する訓練を、当社研修施設のクレフィール湖東で実施しています。訓練では、危険物・毒劇物輸送に不可欠な法令、輸送品の特性、荷降し技術、緊急時の対応などについて習得。危険予知訓練なども行われ、危険を未然に防ぐ感性と知見を養います。訓練最終日にはテストを実施して、合格者をテクニカルドライバーとして認定。現在の認定取得者は約200名で、その高い技術と知識を現場のドライバーに伝達し、安全品質向上につなげています。

CSR VOICE

危険品管理の土台となる「体制」を確立、「安全教育」もより強化していきたい

安全環境管理部　上辻 雅明

危険品の輸送は、万一の場合およぼす影響が甚大であるだけに、物流企業が担う社会的責任は非常に大きいといえます。また、物流形態が複雑化し取り扱い品目も多様化する中、新種の危険品も増え認知しにくい状況も起こっています。センコーとしては、まず「事故を未然に防ぐ」ことを目指し、そのための社内講習やTP認定訓練などの安全教育に注力しています。さらに、「万一の状況に適切に対応できる」体制の確立に向けて取り組んでいきたいと考えています。

危険品物流においては、当社は創業以来の輸送技術を蓄積しています。それらノウハウを活かしきる管理体制を確立すると同時に、新たな化学製品の出現や国際物流の増加など時代のニーズに素早く対応できるセンコーでありたいと考えています。

お客様の声

旭化成ケミカルズ株式会社
物流部　部長
大久保 豊 様

危険品輸送における豊富な実績を高く評価しています

危険品輸送でのお取り引きは、弊社発祥の地・延岡が皮切りとなります。センコーさんは、酸、アルカリ、高圧ガスという、いずれも危険性の高い貨物を長年扱っておられ、その蓄積されたノウハウに加え、最近ますます強化されている教育体制などを高く評価しています。また、陸上のみならず、内航輸送、さらには国際物流ネットワークと多岐にわたるサービスを展開しておられますので、新しいロジスティクスを検討・協議する時やさまざまな物流業務を検討する際に、知恵や力を借りることができたいへん助かっています。

今後の危険品輸送事業においては、外航ケミカルタンカー輸送およびISOコンテナ国際複合輸送などについて、さらなる充実をお願いできればと思います。

CHALLENGE SENKO チャレンジ センコー 2

エコ物流

環境にやさしい物流サービスを創る。
共同配送の推進

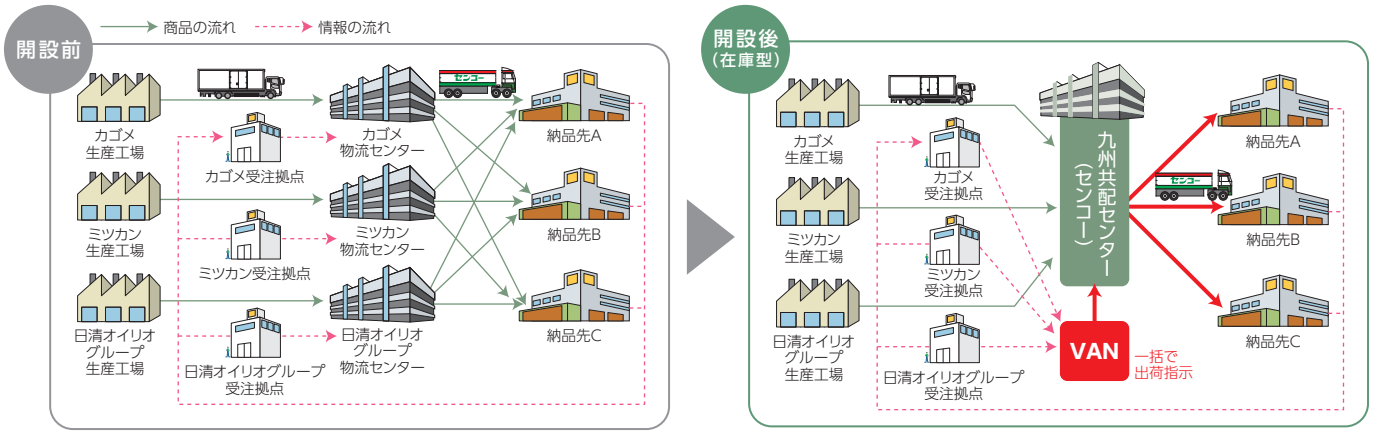
3社・複数工場からセンコー管理の一拠点に集約し配送します

センコーは九州地区で、カゴメ(株)様、ミツカングループ((株)ミツカン様)、日清オイリオグループ(株)様の共同配送業務をスタートさせています。

この3社は、物流品質の向上と環境への配慮を目的とした「食品加工メーカー共同配送研究会(S研)」を設立。共同配送の九州エリア拡大にあたり、当社が共同配送ネットワークと情報システム構築を担いました。3社の同時立ち上げとなり準備期間も約9カ月を要しましたが、センコーの「IT力」と「現場力」を活かし、お客様とともにエコ物流を実現しています。

センコーの「IT力」と「現場力」がスムーズな共同配送を支えます

各社の受注データはVAN※経由でセンコーの情報システムに集約。センコーは3社の一元化されたデータをもとに、効率的な配送スケジュールを組み、福岡PDセンター(九州共配センター)から納品先に3社の商品を一括配送します。この共同配送には、流通情報企業センコーの「IT力」と「現場力」が大いに活かされています。※付加機能を併せて提供する回線ネットワーク・サービス



お客様のメリット

物流品質の高度化で、お客様満足度を向上

○3社共同の物流管理システムの導入により、納品ミスなどを極小化。また、納品先での一括荷受、一括検収が可能となり、荷降し時間などが短縮し、納品先の満足度も向上できます。
○震災などの災害が発生した場合も共同配送ネットワークを使って必要な場所に必要な物資を届けることができ、物資の供給責任を果たすことができます。

環境面でのメリット

環境負荷の低減 $CO_2$25%削減を目指して

○単独配送時に比べ、納品・待機車両台数を低減。また、総配送距離も大幅に減少するので、CO_2を大幅に削減できます。
○新しい環境マスタープランでも、同業種・異業種の「共同配送」の推進を重点施策に掲げています。環境負荷をより低減するエコ物流の実現へ、取り組みを加速させていきます。

輸送車両の削減、CO_2排出量の低減を実現

CSR VOICE

執行役員 九州主管支店長 後藤 邦彦

カゴメ(株)様、ミツカングループ((株)ミツカン様)、日清オイリオグループ(株)様の取引先は、九州全域に合計2,200件以上あります。各社がそれぞれの車両で商品を納入されていた以前は、届け先の地域、店舗が同じといった輸送ルートの重複は52%もありました。共同配送にあたっては、各社の商品を一拠点に集約するとともに、九州内8カ所にデポと呼ばれる中継地点を配置しました。商品をまとめて拠点から各デポまで輸送することで、車両台数を大幅に減らしただけでなく、総配送距離も短縮し、CO_2の排出量の低減も実現しました。加えて納入先では、荷降しや待ち時間の短縮も可能になりました。それまで納入時には複数の車両が店舗の前に列をなすこともありましたが、3社様の商品の納入を一度に済ませることで、待機車両が減ったとご満足の声をいただいています。

こうした共同配送を可能にしたのが、当社の情報システムです。納期や配送先などの配送に関わる情報を一元管理することで納期の遅れや誤配送が激減。食品の流通において最も大切な安全・安心の確保に役立っています。さらに、この共同配送ネットワークは、震災などの災害時にも力を発揮するでしょう。各デポと拠点の商品在庫を一元管理することで、必要なところに必要な物資を速やかに届けることが可能になるからです。共同配送の品質を高める取り組みにゴールはありません。これからもお客様の満足度を一層高めるべく努力してまいります。

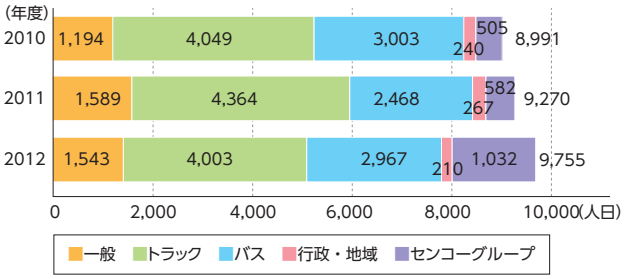
教育拠点「クレフィール湖東」を通じた
安全教育で社会に貢献

“公開型”交通安全研修施設として注目

総面積約27万㎡。クレフィール湖東（滋賀県東近江市）は、国内屈指の規模を誇る公開型交通安全研修施設です。センコーグループの従業員にとどまらず、グループ以外のトラック事業者、バス事業者などのドライバー向け安全運転研修やエコドライブ研修、また一般ドライバーを対象とした安全運転研修などを実施。センコーが事業で培ってきた安全運転・エコドライブのためのノウハウや研修プログラムを広く社会に提供しています。

さらに、他企業・団体の研修施設へ出向いて出張研修も行っています。2012年度は、神姫バス（株）様の指導者を対象とした研修、長崎自動車（株）様の乗務員向け安全研修などをサポート。公道で起こりうる危険を踏まえた走行を実際に体験する中で、個人の課題を見つけ安全意識と技術を高めていただきました。

[クレフィール交通研修　企業・団体別利用者実績]



ラオスで、物流ワークショップ開催

センコーは安全研修支援の場を海外に拡大。国土交通省や外務省などが取り組む「東西経済回廊・南部経済回廊物流効率化支援プログラム」に協力して、物流に関する講義・演習やトラック・フォークリフトの実技指導などを2012年度にラオスで行いました。物流機能の整備や人材育成を後押しすることで、メコン地域（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、タイ）の物流円滑化と効率化に寄与していきます。

フォークリフト実技指導

関西大学・社会安全体験実習の実施

関西大学・社会安全学部の社会安全体験実習もクレフィール湖東で開催しています。社会安全問題に関する問題意識や現実感覚を養うため、2013年2月の実習には269名が参加。学生が走行コースを運転して、自動車の特性や挙動、夜間走行時の危険など実際に模擬体験することで、危険や危機への感受性を養いました。実習を通じて、皆さんには交通参加者としての責任や義務を学んでほしいと考えています。

運転と反応を確認

環境方針

センコー環境方針

環境理念

次世代へと継承していくべき地球が、豊かな自然環境に恵まれ続けるために、私たちはすべての事業活動を通じて、自主的かつ積極的に省エネルギー・省資源をはじめとする環境対策に配慮し、環境の保全および継続的改善に取り組みます。

基本姿勢

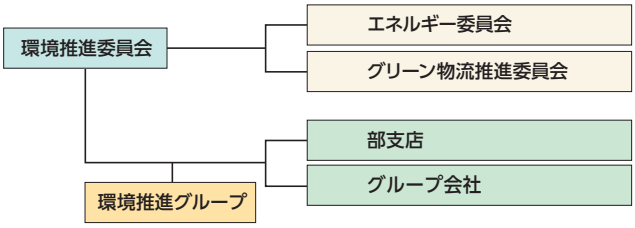
私たちセンコーグループは、地球環境問題を人類共通の重要課題ととらえ、「良き企業市民」として主体的で継続的な環境保全のための基本方針を定め、環境との調和を図りつつ、流通情報企業として社会に貢献します。

基本方針

1. 環境に関連する法規制、条例、協定を順守し、環境汚染の予防および環境保全に努めます。
2. 事業活動によって生じる環境への影響を調査・把握し、環境に負荷を与える要因の低減を継続的に推進します。
   また、環境負荷を低減する新しい技術や設備などの導入を図ります。
3. あくなき創造性を発揮し、環境に貢献する高度なロジスティクスシステムを提案していきます。
4. この方針を達成するため、環境活動推進体制の整備、環境管理規程の整備、環境目標を設定し、推進します。
5. この方針を全従業員に周知するため、環境教育、啓発活動を実施するとともに、本方針を社外に公開し、情報を提供します。

環境推進体制を整え、グループ一体での活動を推進

「環境推進委員会」を中核に環境改善課題を検討し、エネルギー・グリーン物流推進の各委員会ではそれに基づいた具体的施策を立案し、目標達成に向けた取り組みを続けています。



環境マネジメントシステムの推進

環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証取得サイトをモデル事業所として、独自の「センコー環境マネジメントシステム(SEMS)」を構築し展開しています。

ISO14001規格の認証取得事業所では、2004年版への改訂にも対応し、新規格に合わせたマニュアルや基準書類の改訂も行いました。改訂規格での認証は、更新審査で10事業所(2013年4月現在)が継続認証されています。

ISO14001認証の審査風景

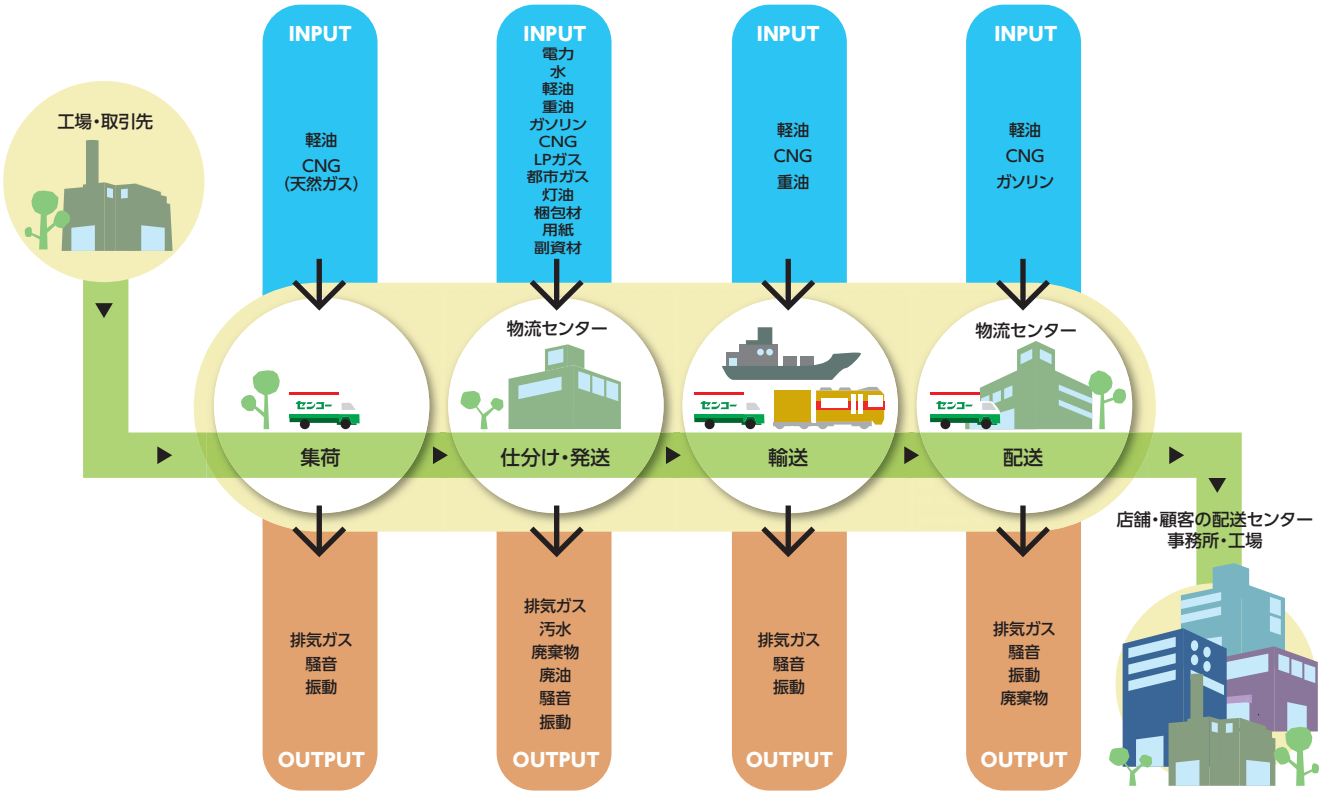
グリーン経営認証の推進

センコーは、国土交通省所管の「交通エコロジー・モビリティ財団」が推進する「グリーン経営認証」の取得を進めています。

阪神車両センターのグリーン経営認証の審査風景

環境影響の全体像

資源やエネルギーの使用量[インプット]と、CO_2や廃棄物などの発生量[アウトプット]を数値化し、事業活動全体を通して発生する環境負荷を把握。今後の取り組みにつなげることで、環境影響の低減に努めています。

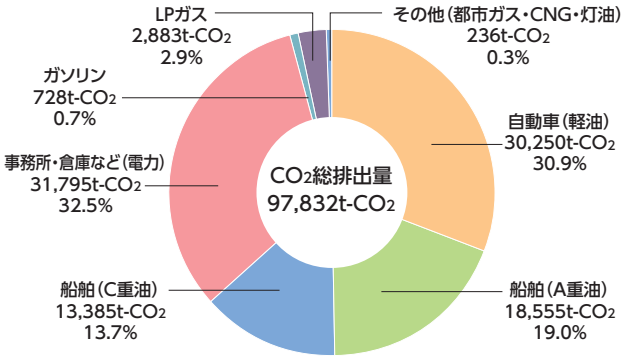


INPUT	軽油	10,374 kℓ
	重油	11,307 kℓ
	電力	65,637,525 kWh
	CNG(天然ガス)	12.0千 m³
	ガソリン	216 kℓ
	LPガス	962 トン
	都市ガス	73.6千 m³
	灯油	16.5 kℓ

OUTPUT	CO_2排出量	97.832 t-CO_2

CO_2排出係数は、2008年6月13日改訂「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」ならびに2010年3月31日改訂「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」に基づく公表値による。

[CO_2排出量要因別内訳]



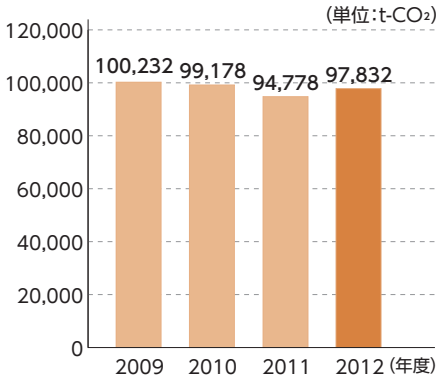
CO_2排出状況について

センコーは、事業活動で使用している自動車や船舶、事業所、物流センターなどから排出される温室効果ガス(CO_2)排出量の把握と削減に努めています。

2012年度のCO_2排出量は97,832t-CO_2で、2010年度比▲1.4%、1,346t-CO_2減少しましたが、2011年度比は3.2%、3,054t-CO_2増の結果となりました。

軽油・重油などからのCO_2排出量は▲4.8%、3,347t-CO_2を減少しましたが、電力において原子力発電から火力発電などに移行したことによるCO_2排出係数変化の影響20.4%増と新規拠点開設による電力使用量の4.8%増分が影響しました。

[年間CO_2排出量の推移]



センコーの環境目標と成果

新中期経営計画 環境目標

“環境先進企業”を目指し、資源最小化&3Rを推進。社会に貢献する環境活動をさらに推し進めます。

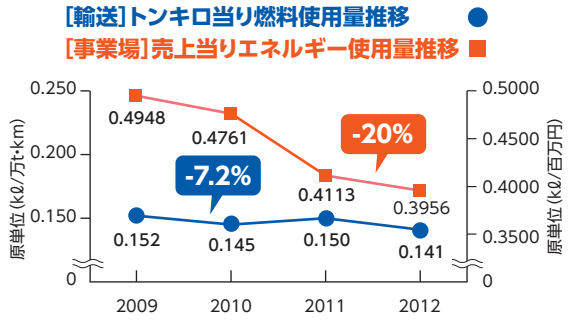
第Ⅳ期 環境マスタープラン（旧）
（2010～2012年度）
「センコーEcoイノベーション2012」
環境目標（2009年度比）

1 CO_2削減に関する活動
トンキロ当たりの燃料使用量削減目標:年次1%削減
（車種別最高燃費への挑戦、省燃費タイヤの装着推進など）

2 エネルギー使用量
年次1%削減
（売上当たり直営倉庫ほか、電力デマンド監視機器設置による省電力など）

3 グリーン物流提案件数
2009年度比倍増

4 リサイクルの推進(紙の再生)
年次平均3,500トン



第Ⅴ期 環境マスタープラン（新）
（2013～2016年度）

中期経営計画では、以下の環境目標を掲げて活動を推進します。

基本的な考え方

“環境先進企業”センコーを目指して、新たな環境規制に対応できる活動、グループ全体としてのCO_2削減に関する活動、資源の最小限利用を目指した3R（リデュース・リユース・リサイクル）活動、省エネルギー設備の積極的導入、環境活動の「見える化」を実践します。

2016年度までの環境目標（2012年度比）

1 CO_2削減に関する活動
トンキロ当たりの燃料使用量削減目標：4%削減
（エコドライブシステムなど先端設備の導入を推進）

2 エネルギー使用量
売上当たり 4%削減
（電力デマンド、LEDなど環境設備導入推進、新拠点導入100%）

3 リデュースによる化石燃料使用削減
HV・ポスト新長期エコ車（トラック）導入100%

4 廃棄物リサイクル率向上
産業廃棄物排出量4%削減、有価物リサイクル量4%向上

5 社会に貢献する環境活動
グリーン物流提案件数目標：年次5%増　同業種・異業種の共同化推進

取り組みの評価と第Ⅴ期目標

	環境取り組み	2012年度 進捗・結果	新中期経営計画（2016年度目標）
定量目標	トンキロ当たりの燃料使用量削減	2009年度比7.2%削減	2012年度比4%削減（年次1%相当） ※人的活動での燃費向上は限界に達しているため、「エコドライブシステム」の導入など先端設備を活用した対策を推進する
	売上（直営倉庫ほか）当たりのエネルギー使用量の削減	2009年度比20.0%削減	2012年度比4%削減（年次1%相当） 「省電力取り組み35項目」を制定し推進
	リサイクルの推進	リサイクル量6,132トン	産業廃棄物排出量：2012年度比4%削減（年次1%相当） 有価物リサイクル量：4%向上（年次1%相当）
	グリーン物流の推進／グリーン物流提案	46件提案、21件成約	提案・成約件数:年次5%増 同業種・異業種の共同化を強化
その他取り組み	エコカーの導入	低公害車（ハイブリッド車、CNG車、最新排気ガス規制適合ディーゼル車）在籍率13.3%	HV・ポスト新長期エコ車（トラック）導入100%
		バッテリー式フォークリフト在籍率66.1%	バッテリー式フォークリフト導入90%
	環境マネジメントシステムの機能化	ISO14001認証継続 グリーン経営認証導入 37事務所に拡大	グリーン経営認証のセンコーグループ全体への拡大
	環境情報管理体制の構築	エネルギー使用量などの環境情報登録・集約システムを作成し運用	CO_2削減量のデータベース化、「見える化」を推進
	社会貢献活動の推進	事業所周辺美化 延べ13,662名の参加	物流事業を通した環境貢献への取り組みを拡大

「Ecoイノベーション2012」2012年度の取り組み報告

1 車両・船舶への取り組み

車両

エコドライブを推進し、低公害車や省燃費タイヤを積極導入。省燃費の取り組みを徹底させています。

船舶

NOx排出を低減するため、新しい環境規制に対応した船舶を導入しています。

詳しくはP20をご覧ください

2 物流施設・事務所での取り組み

新規の物流センターや拠点に環境配慮設備を計画導入するとともに、既存拠点についても計画的に設備の省エネ化を図っています。また各現場で「環境取り組み35項目」を駆使した省エネ活動を進めています。

省エネ型照明　省エネ空調　電力デマンド監視機器　遮熱シート

詳しくはP21をご覧ください

3 物流サービスでの取り組み

お客様との協働による「グリーンパートナーシップ事業」、「共同配送」など、輸送の効率化を図り環境負荷を低減する「グリーン物流」への取り組みをより強化しています。

モーダルシフト　共同配送　グリーン物流サービス

詳しくはP22をご覧ください

CSR VOICE 会社と従業員一体の環境活動を推進します

安全環境管理部長
(兼) 環境推進グループ長　鷲田 正己

環境中期計画において、センコーグループでは全車両営業所による省燃費活動、東日本大震災に伴う電力不足に対し全営業所が一丸となった省電力活動などで、2010年度と2011年度は目標を上回る成果をあげることができました。しかし、2012年度は前年とほぼ同水準の結果でした。

近年、事業拡大とともに事業環境が変化していく中で、事業活動と環境活動を両立させる難しさや、環境活動による成果は個人の評価に結び付けにくいことから「人に頼る環境活動」だけで成果を出し続けることへの限界を感じています。しかし、「将来の環境に対するマイナス影響を低減すること」、「私たちが資源を使い切るのではなく、将来に資源を残すこと」という精神に基づき、環境負荷低減活動こそグループのCSR活動であると位置付け、今後も会社と従業員一体で環境活動の推進に取り組んでまいります。

車両・船舶への取り組み

車両の燃費向上

エコドライブ（省エネ運転方法）の徹底

燃料消費やCO_2排出を抑制する省エネ運転方法（エコドライブ）を推進するため、センコーグループではデジタル式運行記録計をグループ全車両にあたる約2,000台のトラックに装着しています。エンジン回転数などに上限値を設定し、超過時に警告音を発生するとともに運転状況を評価。ドライバーへ省エネ・安全運転を促すことで燃費削減に努めています。

エコカーへの切り替えを推進

燃費が良く、排気ガスがきれいなトラックをエコカーとして新たに位置づけ、導入を進めています。ハイブリッド車、CNG（天然ガス）自動車に加えて、最新排出ガス規制（ポスト新長期排出ガス規制）適合ディーゼル車をエコカーとし、4トン以上のトラックへ導入を推進しています。フォークリフトも可能な限りバッテリー式へ転換。2013年3月末現在で、エコカーの在籍数は333台、低公害フォークリフトの在籍数は1,627台となっています。

省燃費タイヤの装着拡大

省燃費効果が期待できる省燃費タイヤを社内で推奨し導入を図っています。今後も継続して導入を進めていきます。

省燃費型船舶・装置の導入

省燃費型防汚塗料（船底塗料）の効果継続

センコーは社船「扇燿丸」「扇龍丸」「扇泰丸」などに、2010年度から省燃費型の船底塗料（吸水性高分子含有船底塗料）を導入し、2009年度対比で約4%程度の省燃費効果を上げています。その後も継続して省燃費型の船底塗料を使用することで、2011年度以降も約3%程度の効果を確認しています。今後も継続し、一層の省燃費運行を目指します。

プロペラ・ボス・キャップ・フィンの導入

プロペラ・ボス・キャップ・フィン（PBCF）とは、プロペラ後部にあるボスキャプにプロペラと同じ枚数のフィンを取り付けることにより、ボスキャップの先端から発生する渦を拡散・減少させ、抵抗を軽減する装置です。この導入で推進効率を向上させ、省燃費につなげています。2013年度も2隻に装着を計画しています。

物流施設・事務所での取り組み

45事業所に電力デマンドを導入

エネルギー使用量の約1/3を占める電力使用量の削減に向け、事業所では、35項目の削減手法をそれぞれの設備、受託業務にあわせて採用し、省エネ活動を推進しています。

中でも電力使用量の多い事業所では、電力の使用状況を30分ごとに計測し表示する「電力デマンド監視機器」を導入。電力使用の「見える化」を図り、電力消費の要因に応じた効果的な使用量削減対応を進めています。

現在は45事業所にデマンド機器を設置し、電力ピークカット(電力需要のピークを低く抑えること)や、事務所の蛍光灯の間引きなどの節電対策を講じています。そのほかにも、BCP(事業継続計画)の観点から自家発電機の導入も実施しています。

東北地区の物流拠点に設置された自家発電機

遮熱シートの導入で職場環境も改善

夏場の節電対策と職場環境改善の取り組みの一環として、物流センターの屋上一面に遮熱シート(折板屋根専用)を取り付けています。これにより屋根の温度が約20℃、室内温度が3〜5℃下がり、最上階の空調温度を下げることができ、20%近い電力ピークカットや節電および熱中症防止などの効果が出ています。

省エネ型照明への転換を推進

センコーでは、事務所や物流センター内の光源を従来型照明からLED蛍光灯などに取り替えるなど、高い効果が見込める省エネ型照明への転換を積極的に進めています。さらに、照度計でチェックし適正な照度に調整する、「反射板」を採用するなど、取り組みを徹底させています。

千葉物流センター

茨城PDセンター

泉北PDセンター

福岡PDセンター

物流サービスでの取り組み

お客様との協働により、グリーン物流を推進しています

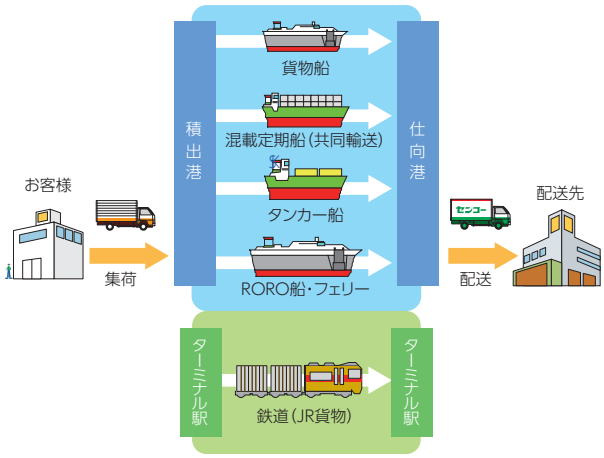
センコーでは、物流事業そのものを通じ、環境負荷の低減を目指すグリーン物流を計画的に進めています。

この取り組みは、荷主企業の皆様のご協力をいただきながら、環境により優しい物流サービスを実現することで、大きな環境負荷低減の効果が期待できます。

センコーの重点取り組みテーマ

モーダルシフト

モーダルシフトの推進

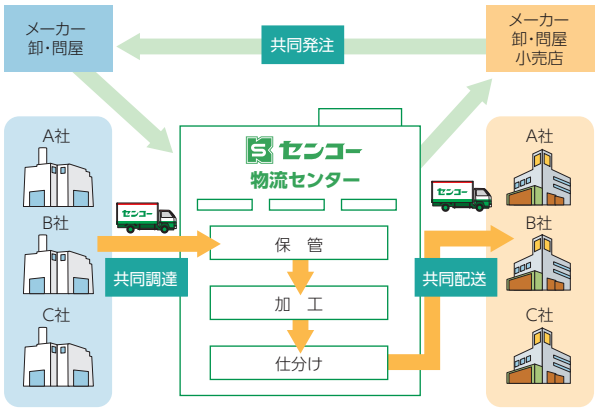


鉄道 × 船

船舶を保有し、さまざまな航路で内航海上輸送を行うセンコーならではのモーダルシフトをご提供。自動車と鉄道、船舶の輸送モードの特性を活かし組み合わせ、物流を効率化させることで、輸送におけるCO_2排出量の削減に貢献しています。

共同配送

物流の効率化・ECO化をサポート



物流ICT × 拠点ネットワーク

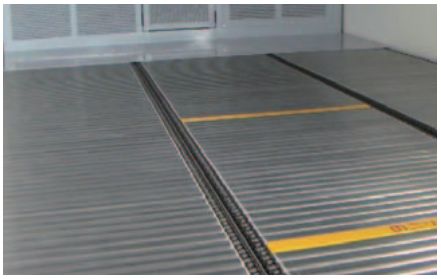
複数のお客様の荷物を共同で集荷・配達する「共同配送」システムを構築。高度な物流ICT（情報通信）技術と全国に展開する物流拠点を活かした、効率的かつエコロジーな物流サービスをご提供しています。

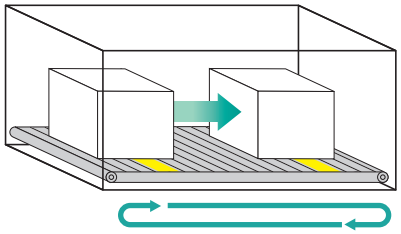
詳しくはP13・14をご覧ください

業界初「オートフロア機能付き鉄道コンテナ」を開発

センコーは、荷台の床を電動でスライドさせるオートフロア機能を搭載した31フィートコンテナを、（株）総合車両製作所様、ナカオ工業（株）様と共同開発しました。鉄道利用運送では、コンテナへの荷物の積降しの多くは手作業で行われていましたが、新型コンテナの開発により、積降し作業者はコンテナ内で作業をせずにコンテナの奥まで積込みができるようになり、作業の効率化と業務負担の軽減を図れます。

センコーはこれ以外にも新しい機能を持つさまざまな鉄道コンテナの開発を進めています。輸送の利便性向上を図ることで、よりお客様のニーズに合わせたモーダルシフトを提案したいと考えています。





荷物をコンテナの入口に積み、
床ごと奥にスライドさせることで奥まで荷物を移動

安全活動方針

センコーグループ安全活動方針

安全方針

安全理念　「人間尊重」と「すべてに優先する安全」の精神のもと、『完全0(ゼロ)災職場の確保』を実現する。

1. あらゆる事故・災害は防止することができ、また防止しなければならない。
2. 管理者は従業員の安全に対する責任を負う。
3. 全従業員が「あらゆる事故をなくするのだ」ということを信条にしなければならない。
4. 安全は高品質と高生産性を確保する。

基本姿勢

◎私たちセンコーグループは、物流事業の社会的使命を深く認識し、事業活動における安全確保が事業の根幹であることを、全従業員が正しく理解し、安全の向上に寄与する取り組みを推進する。
◎経営トップは、現場からトップまでが一体となって事業活動における安全の確保と安全性の向上に努めるよう積極的に主導する。
◎安全の基本は、健康な心身であることをセンコーグループに働く者1人ひとりが強く意識し、適切な健康管理を実践する。

行動指針

1. 関係法令を遵守し、社会的責任を果たします。
2. リスクアセスメントを徹底しあらゆる安全リスクを低減する。
3. 健康管理体制の充実と自主健康増進によって「健康障害」を防止する。
4. 安全衛生活動に関する情報について積極的に公表します。

平成25年4月1日
代表取締役社長　福田 泰久

安全目標

センコーでは、事業における安全の確保が最も重要であるという認識のもと、あらゆる事故・災害を防止する安全活動を徹底させており、一丸となって安全マネジメントシステムのPDCAを展開し、リスクの低減に努めています。

2012年度は、国土交通省に報告が必要な重大な交通事故は1件も発生しませんでした。

[達成状況／目標]

	2011年度	2012年度		2013年度
	実績	目標	実績	目標
重大事故	0	0	0	**0**
労災事故	14	12	8	**7**
交通事故	11	14	10	**8**

※重大事故とは、自動車事故報告規則第2条に該当する事故として設定しています。
※交通事故目標件数は、法に基づく、公表目標数値で表記しています。

センコー流「安全マネジメントシステム」の運用と評価

貨物自動車運送事業法により、一定規模以上の運送事業者は、運輸安全マネジメントに基づいて事業を実施し、定期的に国の評価を受けなければならないとされています。センコーは、2011年11月に国土交通省から、運輸安全マネジメントが有効に機能しているとの評価を受けました。

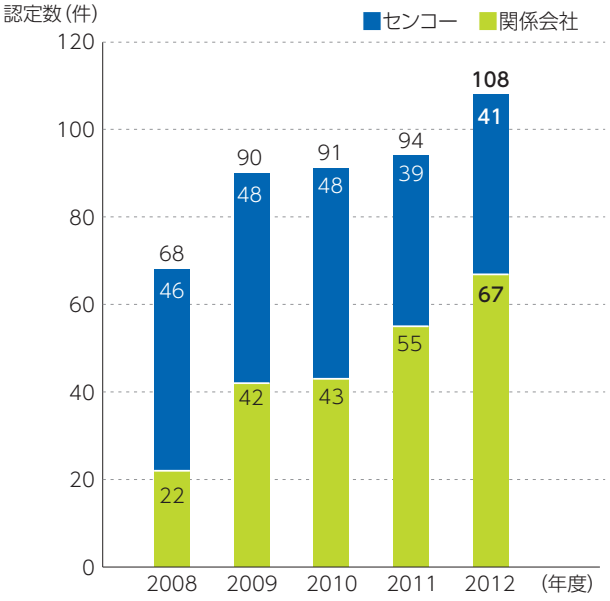
センコーの「安全マネジメントシステム」は、現場からリスクや課題を抽出し、組織のトップによるシステムの再構築および日常の安全活動の改善へとつなげる当社独自のものです。リスクマネジメントの考え方を取り入れ、トップダウンとボトムアップを融合させたマネジメントシステムによって、より現実に即した安全活動と継続的な安全水準の向上に努めています。

安全管理の取り組み

安全性優良事業所認定の取得

安全マネジメントシステムに沿った安全活動の一環として取り組んでいるのが、全事業所における「安全性優良事業所認定」の取得です。安全性優良事業所とは、社団法人全日本トラック協会（国土交通省指定）が事業者の「安全性に対する法令の遵守状況」「事故や違反の状況」「安全性に関する取り組みの積極性」を、評価基準に基づいて点数化し認定するもので、2012年12月現在、センコーの41事業所およびグループ会社67事業所が認定を受けています。

［ 安全性優良事業所認定数推移 ］



安全関連法令を遵守した「立会点呼」「IT点呼」

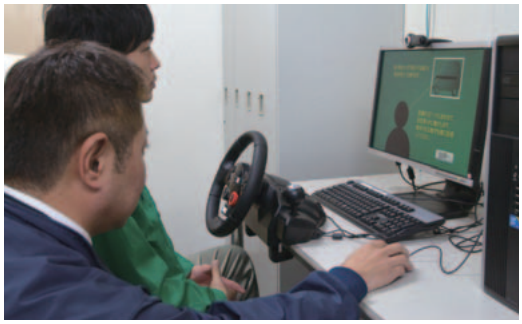
事業における安全の確保が最も重要であると認識し、「関係法令および安全管理規程に定められた事項を遵守する」ことを重点施策の1つに掲げています。

点呼においては、運行管理者・運行管理補助者を活用し、「立会点呼」の100%実施に取り組んでいます。「立会点呼」における健康状態の確認は、「健康起因事故」を予防する目的で実施しています。さらに全自動アルコール検知器と全自動血圧計を組み合わせることで、残酒状況だけでなく健康のバロメーターである血圧を把握し運行可否の判断材料としています。

また、IT点呼の導入事業所を拡充し、「立会点呼」の補完を行うことで、運行管理の強化につなげています。

「NASVA インターネット適正診断システム」の導入

センコーでは独立行政法人自動車事故対策機構（NASVA）が開発した、インターネット利用による適性診断システムを都道府県ごとに導入しています。パソコンにハンドルやペダルを装着し、実際にハンドルを握り模擬運転診断が受けられるのがこのシステム。ドライバーの長所、短所を見出し、それぞれの癖に応じたアドバイスを受け改善・指導につなげることで、事故防止と安全性のさらなる向上を目指しています。



CSR VOICE

リスク低減活動をレベルアップしています。

安全環境管理部
安全管理グループ長 **伊藤 隆巳**

当社では、2002年からリスクアセスメントによるリスク低減活動に取り組んできました。今回、このリスクアセスメントをリニューアル。各作業の中に潜む安全リスクを特定評価し「本質安全化」を大前提に置いた活動にレベルアップを図りました。

また、全社の営業所ごとのリスク低減活動が一目でわかるよう「システム化」し、効果のある低減活動が全社で水平展開できる仕組みを導入し、リスク低減活動の活性化を進めております。

安全教育・技能向上の取り組み

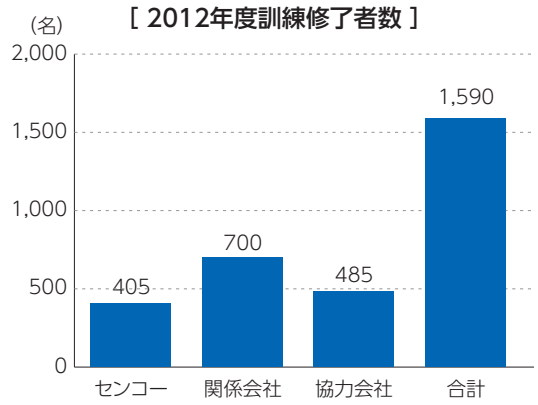
「強い現場」「卓越した現場」を創る、安全教育と人材育成

自ら革新していく「強い現場」、そこから新しい価値を創造できる「卓越した現場」を創る人材の育成。これは、物流企業が最優先すべき課題ととらえ、その実現のための教育体制を強化。すべての研修に改善・革新をテーマとしたカリキュラムを導入して、各地域の現場に革新をもたらすリーダーの養成を目指しています。

また、教育対象を協力会社や派遣・パート、さらに海外物流拠点にまで広げ、勤務する従業員に対して“センコー流”を徹底させています。

地区訓練で安全品質を向上

センコーグループで働く従業員を対象にした訓練を各地区で実施し、より多くの従業員が安全品質教育を受講しています。2012年度の地区訓練修了者数は、2011年度(1,023名)の約1.5倍に増加し、グループ会社や協力会社を含め1,590名となっています。



リーチ基本走行の訓練

事故事例DVD教育

死角と努力視界の確認風景

地区訓練を充実させるトレーナーを育成

この地区訓練で、現場第一線で働く従業員を直接指導するのが、「安全運転トレーナー」と「リフト技能トレーナー」です。

センコーでは、卓越した現場力を築き上げるために、センコー流の行動規範を構築し、物流基礎教育をセンコーグループ全体に普及させる橋渡し的役割を担う「安全運転トレーナー」と「リフト技能トレーナー」を育成しています。

グループ会社への安全研修

M&Aなどで新たにセンコーグループに加わった運輸系の会社に対して、“センコー流”を身に付けるための「ドライバー安全運転訓練」を実施しています。

また、海外に展開する物流拠点や現地法人でも安全管理教育を行っています。

プロとして技術力を高める「センコーグループ技能コンテスト チャンピオンシップ2012」を開催

CHECK! その後のレポート

センコーでは、2012年9月15日と16日、「センコーグループ技能コンテスト チャンピオンシップ2012」をクレフィール湖東で開催。ドライバー部門、オペレーター（フォークリフト）部門、事務（電話）対応部門の3部門で、全国12ブロックの予選を勝ち抜いた選手が日ごろ培った技術と知識を競いました。

出場者、競技内容がともにレベルアップ

同コンテストは、センコーグループの現場力強化の一環として、安全・品質・生産性向上に向けて、技術と知識を高め、業務レベルの向上と高い技術を身に付けることを目的に毎年開催しています。

5回目となる今回は、従来の技能コンテストよりもさらに高いレベルを目指し、「地区大会を勝ち抜いた選手が競い、最も優秀な人材を選出する場」と位置付け、名称も「チャンピオンシップ」と改め、競技内容をレベルアップさせました。

ドライバー部門
参加者 20名

知識テスト、スラロームなど課題コースの走行や2段幅寄せのほかに、よりハイレベルな課題として、障害物に接触することなく狭い道を走行する高隘路（たかあいろ）、左前輪の連続一本橋通過に取り組みました。

オペレーター部門
参加者 18名

知識テスト、走行エリアでのハンドル操作や荷役エリアにおけるマスト操作など、基本技術に加え、狭小エリアでの操作など、カウンタリフトの特徴を熟知した運転技術が要求される難コースに挑みました。

事務（電話）対応部門
参加者 29名

4分間の競技時間を設定し、お客様からの商品問い合わせ、納品先問い合わせなど、電話対応力を競いました。

安全活動の評価・達成状況

外部団体からの評価・表彰

安全品質を守り、向上させるセンコーの各支店・グループ会社の取り組み、また従業員1人ひとりの高い安全意識・技能は、外部団体やお客様から評価され、確かな信頼へとつながっています。以下は、2012年度における主な表彰実績です。

支店・関係会社表彰

●九州主管支店
福岡東流通センター

旭化成ホームズ(株)様の「躯体部材配送安全品質コンペ」で優勝

●阪神支店
国際神戸営業所
・阪神車両センター

(株)日本触媒様から安全優良賞

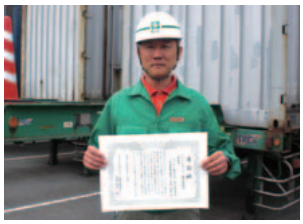
●センコー(株) (近畿運輸局が管轄する大阪府、兵庫県、滋賀県に限る)

近畿運輸局から優良自動車運送事業者として表彰

個人表彰

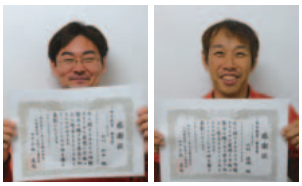
●岡山主管支店
水島PDセンター車両係
北畠 政昭

バルク輸送品質向上への取り組みにより、4年間物流トラブルゼロを評価され、(株)プライムポリマー様から功労賞



●神奈川センコー運輸(株)
(写真左から)
石川 和広、北村 徳識

旭化成ケミカルズ(株)様から安全提案優秀賞



●千葉支店 車両センター
福嶋 光博

円滑で安全な業務遂行への尽力が評価され、出光興産(株)様から優秀安全功労賞

●上海扇拡国際貨運有限公司
張家港分公司
顧 益飛

杜邦-旭化成聚甲醛(張家港)有限公司様から、安全に対する高い意識と行動が評価され「安全の星」を受賞

無事故無災害の社内表彰

安全運転を継続し、長期無事故を達成した従業員を社内表彰しています。

30年間無事故表彰

●三重センコーロジ(株) 鈴鹿営業所
山下 進

左から、山下社員、福田社長、山下社員の奥様

TOPICS

CHECK! その後のレポート

「全国トラックドライバー・コンテスト」で、当社初の優勝！

第44回全国トラックドライバー・コンテストにセンコーグループから6名が出場。女性部門(18名)で、浜松PDセンターの花岡さや社員が優勝に輝きました。

静岡支店 浜松PDセンター **花岡 さや**

初めて全国大会に出場しましたが、優勝できなかったら次は出場しないと決めていました。それだけ「勝ちたい」という気持ちを強く持っていたことが、今回の優勝に結びついたのだと感じています。

普段から11トンの大型トラックに乗っていますが、運転中は周りの車両への気配りを心掛けています。また、大きな車で公道を走らせてもらっているので、道を譲るといったマナーを大切に運転しています。日常業務を通してこれからも技能を磨き、安全と安心を与えられるドライバーを目指していきます。

従業員とともに（健康活動）

さあ身体を動かそう！「健やか活動チャレンジ85」

従業員の健康づくりを応援するため、センコーグループでは2011年度から「健やか活動チャレンジ85」を推進しています。各職場でも楽しく活動に取り組み、目標数値である2カ月間で“85SK※”以上を達成できるよう各事業所では自主的なイベントを開催しています。※活動量がわかる当社独自の健康単位

蓮田市開催「蓮田マラソン大会」に参加

埼玉北支店

● 参加人数…70名　● 家族…12名

支店長の「よし、支店全員で走るぞ!」の一言から参加決定。各コースに参加し、全員が無事完走でき、大会後も走っている人がいるほど健康への意識が高まりました。

合同ウォーキングイベントを開催

関東主管支店、野田センコーロジサービス（株）

● 参加人数…85名

11月の寒い強風の中での開催となりましたが、たくさんの従業員やその家族が参加し健康活動とコミュニケーションが図られ、満足いくイベントが開催できました。

管理監督者へのメンタルヘルスマネジメント教育

心の健康にも目を向け、予防対策と産業医による面談、復職に向けた支援制度を充実させています。2012年度は管理監督者を対象に、仙台と東京の2拠点で専門家によるメンタルヘルスマネジメント教育を実施しました。

「メンタルヘルス問題について正しく理解するコツとラインケアの重要性を習得できた」、「部下によく口にする言葉やその言葉に対しての感じ方、受け止め方も確認できて良かった」と感想が寄せられています。

メンタルヘルスマネジメント研修風景

CSR VOICE　いきいきと健康で働ける職場づくりを目指す

埼玉主管支店では、2012年度から看護師の採用と健康管理室を設置しています。島田看護師は埼玉主管支店、埼玉北支店、埼玉南支店を担当。誰もが気軽に相談ができる親しみやすい健康管理室を目指しています。

産業看護師　**島田 利恵**

健康診断後に実施する個別面談では多くの従業員と接する機会があり、ご自身の抱えている健康問題のほか、仕事やプライベートの事など気軽に話していただけます。保健指導だけでなく、従業員がどうしたら元気に働き続けていくことができるかを一緒に考えていける面談を心掛けています。今後は、一次予防の視点で従業員のさらなる健康づくりを目指し、衛生教育などの充実を図りたいと思います。

従業員とともに（ダイバーシティワーク、障がい者雇用）

すべての従業員がいきいきと働ける職場環境を創ります

従業員がいきいきとやりがいを持って働けること。これは、企業成長の活力にもなります。センコーグループでは、働くすべての人が生涯“働きやすい”“働き続けられる”職場環境づくりを推進・提供するため「ダイバーシティワーク推進部会」を設置し、雇用環境の改善に努めています。

ダイバーシティワークの取り組み

ダイバーシティワーク推進部会は下記の視点から、ハード（組織や制度）とソフト（意識や運用）の両面で活動を推進しています。全従業員が働きがいを感じる環境を醸成していくことで、1人ひとりの成長と活躍を促し、会社の成長と発展につなげていきます。

基本的な考え方

1. 男女という枠組みだけをとらえるのでなく、国籍や文化、ハンディーキャップなども含めたさまざまな価値観を持つ従業員が、お互いに尊重し合い、より一層活躍できるようにする
2. 人生において、時々の置かれた環境と価値観の変化に応じて、働き方を選択できるようにする

ダイバーシティワークを推進するための主な制度

育児	育児休業	◎（法令で定められた基準）子ども1人につき1年 ▶（センコー基準）子ども1人につき3年
	短時間勤務制度（育児）	◎（法令で定められた基準）子どもが小学校入学まで ▶（センコー基準）子どもが小学校卒業まで
	時間外労働の免除	◎3歳までの子どもを養育する従業員の請求により、時間外労働を免除
	各種休暇	◎マタニティ、出産、育児
介護・看護	介護休業	◎要介護状態にある家族の介護が必要な場合に取得可能
	短時間勤務制度（看護・介護）	◎配偶者および一等親の親族を対象1人につき最長3年限度
	各種休暇	◎介護、子どもの看護
仕事との両立支援	ウェルカムバック制度	◎育児などで一旦退職しても、復職できる制度（登録制）

CSR VOICE

「短時間勤務制度」を利用 子育ても、仕事も頑張っています！

左から大家、佐藤、東海林

VOICE 1 大家 由香

子どもがいると1時間でも早く帰れることは、ありがたいと思っています。その分、仕事は短い時間の中で内容の濃いものにしようと工夫するようになりました。

VOICE 2 佐藤 理華

子育ては一時的なものであり、その期間だけ勤務時間を制限でき、なおかつ正社員身分を保全できる、とてもいい制度だと思います。仕事と家庭を両立したいと思う女性として、たいへん助かっています。

VOICE 3 東海林 千穂

この制度がなければ仕事を辞めなくてはならないという選択肢もありました。制度を利用したおかげで、気持ちにも余裕を持ちながら仕事、家事、育児を両立することができます。「子どもがいても働ける会社だから頑張れ!」と、以前、上司に言われましたが、本当にその通りです。

福祉型農業事業「センコースクールファーム鳥取」を展開しています

地域や社会への貢献を視野に入れた福祉型農業事業として注目されているのが、特例子会社の㈱センコースクールファーム鳥取です。鳥取県湯梨浜町の廃校を利用して、2010年4月から障がい者や高齢者の方々をセンコーの従業員として雇用し、ビニールハウスで野菜の水耕栽培、校舎の一部を改造した栽培施設でキノコの生産に取り組んでいます。

従業員は現在40名で、農産物の育成・収穫を担当するチーム、梱包・配送を担当するチーム、管理・営業を行うチームなどに分かれ作業を行っています。最近では収穫サイクルの早い小松菜なども生産し、農産物のバリエーションを増やすとともに、畑での露地栽培や野菜加工品の製造、地域特産物の商品化なども検討し、事業を発展させていく考えです。

大阪府立吹田支援学校鳥飼校の生徒達がファームを見学

CHECK! その後のレポート

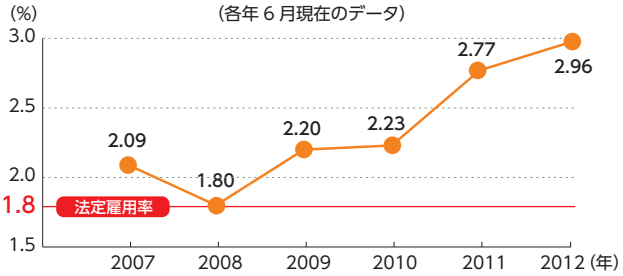
㈱センコースクールファーム鳥取では、福祉関連施設や廃校利用を計画する地方自治体、企業からの見学を定期的に受け入れています。2013年1月には、大阪府立吹田支援学校鳥飼校の高校生35名が研修旅行の一環として訪問。ビニールハウスでの水耕栽培やキノコ栽培施設をはじめとする農業施設などをスタッフが案内し、会社概要や障がい者の勤務実態について説明しました。生徒たちは、廃校を利用した珍しい農業施設やそこで育つ作物を興味深い様子で見学。その説明にも熱心に耳を傾けていました。また3月には、モンゴルから福祉関連の研修生が訪れています。

ビニールハウスでチンゲン菜を栽培する様子を案内

障がい者雇用を積極的に推進しています

センコーグループでは、㈱センコースクールファーム鳥取(特例子会社)の設立をはじめ障がい者雇用にも努めています。2012年6月時点の雇用率は2.96%で、今後もより働きやすい環境や制度を整えていきます。

[障がい者雇用率の推移]



法定雇用率　労働者数が一定以上の事業主が雇用する義務のある障がい者の比率。2013年4月1日から2.0%に引き上げが決定しています。

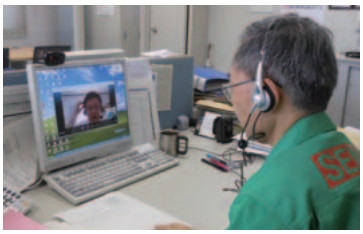
在宅勤務で雇用の機会を創出

CHECK! その後のレポート

神奈川センコー運輸(株)では、障がい者の方々の就職サポートを行う就労支援センターの紹介で、岩手県在住の遠藤豊社員と雇用契約を締結。障がい者雇用において初の在宅勤務を適用しました。

遠藤社員は電動車椅子で生活しており、業務は1日4時間で、月曜日から金曜日の週5日。データ入力を主な仕事とし、業務の指示や調整などは、インターネット経由のテレビ会議システムを活用しています。

今後も障がい者の方々に、さまざまな形で仕事を提供していきたいと考えています。



テレビ会議システムによるやりとりの様子
(画面上に写っている従業員の方が遠藤社員)

グローバル物流を支援する新システムが稼働

お客様の物流パートナーとしての役割を確実に果たすこと。これは私たちの使命であると考えています。そのための新システムやサービスを、センコーは業界に先駆けて開発。2010年に開設した、災害時に備えた「データバックアップセンター」もその1つです。さらに2012年には、国内外に拠点を持つお客様に向け、国際物流を効率化する「BCクラウド」を開発し、8月から本格稼働させています。

米国ケンタッキーからハンディ無線でリアルタイムに在庫更新

独自システム「BCクラウド」で、多国間物流の高効率化を実現

「BCクラウド」シリーズには、汎用倉庫クラウドシステムやクラウドSCEMシステムなどがあります。

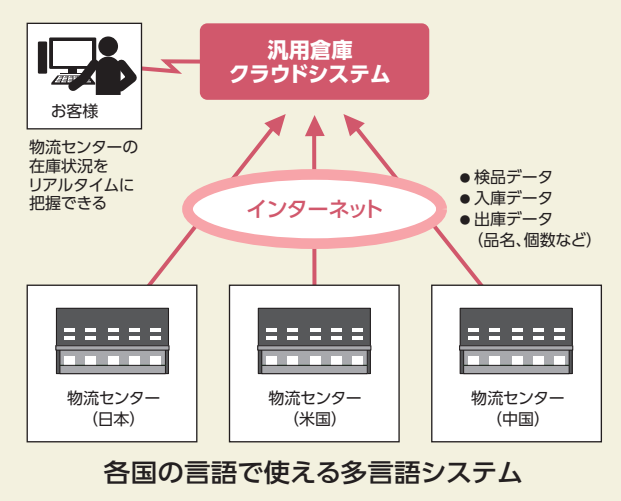
インターネット環境さえあれば、世界中どこからでも利用できる倉庫管理システムが「汎用倉庫クラウドシステム」。国境を越えた物流センターでも、距離を感じさせないリアルタイムな物流情報を共有できます。

一方、調達・製造から配送・販売に至る物流プロセスの「見える化」を実現したのが、「クラウドSCEMシステム」。多国間、複数企業にわたる輸送の進捗や生産・在庫状況などを把握でき、これにより在庫の最適化や納期の管理など、お客様の業務効率を大幅に向上させます。

いずれのシステムも情報をすべてセンコーデータセンターの統合サーバーで管理するため、お客様がサーバーを設置する必要もなく、低コストでの導入・利用が可能となります。

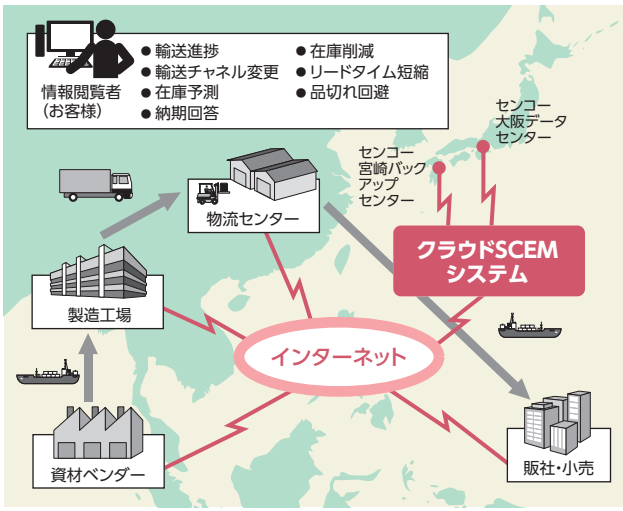
汎用倉庫クラウドシステム

日本語だけでなく多言語（英語・中国語など）に対応。
システムの開発が不要になり、納期の大幅短縮も実現。



クラウドSCEMシステム

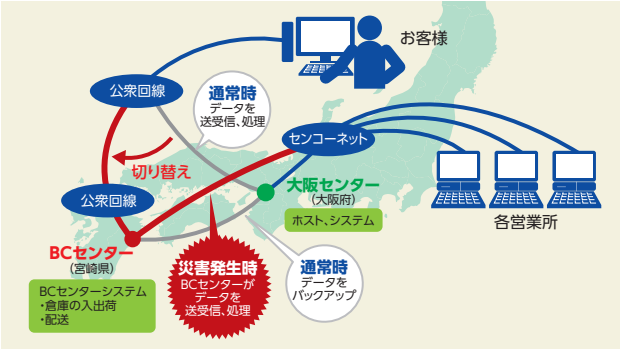
「見える化」により、物流プロセスが計画通りに進んでいるか進捗管理やアラート監視できます。



お客様の事業活動を止めない！「データバックアップセンター」

お客様の大切な物流情報をお預かりする企業として、情報資産の管理には万全を期しています。データバックアップセンターを活断層がないとされる宮崎県に開設したことで、震災などでシステム停止が発生した場合も、お客様の事業活動を止めることなく、リスクを最小化できます。

また、大阪のデータセンターと業務データの二重化を図り、災害リスクを回避しています。万が一バックアップセンターがシステムダウンした際も、30分以内に物流システムを復旧できる体制を構築しています。



CHECK! その後のレポート

「子ども交通安全教室」を全国14カ所で開催

“安全をすべてに優先させる”物流企業として、センコーは培ったノウハウを、交通安全教室の開催を通して地域の皆様のお役に立てる取り組みをしています。近隣の子どもたちや保護者の方を招いて、横断歩道の渡り方や自動車の死角、トラックの危険性などを実際に体験しながら楽しく学んでいただきます。講師を務めるのは、各営業所の安全運転トレーナーなどプロドライバー。2012年度に参加いただいた子どもの総数は504名、6年目を迎え開催エリアは14カ所に拡大しています。

豊橋センコー運輸（株）

8/5 参加子ども数 80名

大型トラックに乗り、視界を体験

積水ハウス（株）様主催のイベントの中で開催。運転席から後方の死角を確認してもらいました。

参加者より
パトカー、白バイ、救急車、消防車の展示に、子どもが喜んでいました。

茨城支店

9/9 参加子ども数 35名

婦警さんの腹話術で楽しく安全学習

地元の保育園児を招いて開催。楽しく興味を持ってもらうためにさまざまな工夫をしています。

岡山主管支店

10/28 参加子ども数 20名

楽しく説明もわかりやすいと好評

今回で5回目の開催。「規模も大きく、とても勉強になった」と感謝の言葉をいただいています。

参加者より
説明が分かりやすく、社員さんも回数を重ねるごとに上手になっています。

延岡支店

11/17 参加子ども数 60名

発煙筒使用体験を追加し、6回目開催

保護者の方々に緊急時の対応を身に付けてもらうためのプログラムも充実させています。

参加者より
普段乗れない大型トラックにも乗れ、貴重な体験に大喜びでした。

北九州支店

11/23 参加子ども数 17名

親子で一緒に学び楽しめる交通安全教室

大分営業所のパートさん親子が参加。交通安全について学んだ後、お母さんの仕事場も見学。

九州主管支店

2013 2/24 参加子ども数 63名

パトカーの乗車体験は子どもたちに大人気

クレフィール湖東のマスコットくうちゃんの紙芝居で、交通安全について楽しく勉強しました。

参加者より
いろんな体験をさせてもらい、事故の恐ろしさをあらためて痛感しました。

2012年度開催部門

札幌主管支店／茨城支店／柏支店／埼玉主管支店／静岡支店・富士センコー運輸（株）
三重支店／京滋主管支店／阪神支店・阪神センコー運輸（株）／岡山主管支店／九州主管支店
北九州支店／延岡支店／（株）クレフィール湖東／豊橋センコー運輸（株）

地域とともに（地域活動）

親の職場に触れる「子ども職場見学会」を開催

センコービジネスサポート(株)本社では、8月23日に「第2回子ども職場見学会」を開催し、13名の小学生が参加しました。

この見学会は、普段見ることのない親の職場や働く姿に触れて、親子のコミュニケーションを深め、子どもたちの勤労観や職業観を育成する目的で開催しています。プログラムでは、当ビルの「セキュリティ」、「エコ・省エネ」、「職場環境」などに配慮した設備について説明。中でも、「エコ・省エネ」の取り組みに関心を持った子どもが多かったようで、特に階段に設置された人感センサー付照明が、人に反応して点灯することに驚いていました。

見学会終了後には、参加記念に名刺をプレゼントしました。仲良くなったお友だちと自分の名刺を交換する場面も見られ、好評のうちに見学会を終えました。

入館ゲートで入館カードを配布し、ゲートを通過

ビル内に設置している障がい者用エレベーターについて説明

「出前授業」を開催し、地元小学生に「仕事」について考える機会を提供

延岡支店では、11月30日に日向PDセンター（宮崎県日向市）で近隣小学校の児童104名を招き、2回目となる「出前授業」を開催しました。

この活動は、子どもたちが地元企業の仕事に触れると同時に、働く大人との交流を通して、仕事をする意義や楽しさ、責任感などを感じ取ってもらうことを目的に、日向市教育委員会が開催しているものです。同市に工場や事業所を置く企業が、技術者を派遣して小中学校での授業や企業に生徒を招いて見学会を行っています。

授業内容は、はじめにセンコーの仕事や物流の仕組み、輸出入について分かりやすく講義しました。続いて、物流センターでシートシャッターやエアカーテンなどを見学。普段見ることのできない設備に子どもたちは驚き、興味津々の様子でした。最後にクランプリフトでのパレット積替え作業などを見学しましたが、間近で作業するフォークリフトに目を輝かせ、歓声をあげていました。地域貢献の一環として、この出前授業を引き続き開催していく考えです。

シートシャッター見学の様子

フォークリフトによる作業を披露

物流の仕組みについて社員が講義

参加した小学生の皆さん

「囲碁フェスティバル」で地域の幅広い世代と交流

交通安全研修施設のクレフィール湖東で、9月9日に「囲碁フェスティバル2012」を開催しました。同フェスティバルは、2006年に「クレフィール湖東」が開設10周年を迎えたのを記念し、囲碁の普及を通じて地域の文化活動促進を図るために企画したもので、今回で6回目の開催となります。

当日はゲストに女流プロ棋士4名を招き、見学者を含めて約110名の囲碁ファンが来場しました。プロ棋士1人につき4名が対局に挑む「指導碁」には計48名が参加し、プロ棋士が対局の解説を行いました。また32名が段・級位ごとに4グループに分かれて勝ち抜き戦を行う「囲碁トーナメント」では、今年度の学生本因坊が6段以上の部で優勝、5段・4段の部で小学生が優勝するなどレベルの高い戦いが繰り広げられました。最後には、ゲストによるトークショーやサイン色紙、サイン本の抽選会が行われ、集まった囲碁ファンは世代を超えて交流を深めました。今後も、この囲碁フェスティバルを地域貢献活動の一環として、継続的に開催する予定です。

左より、巻幡三段、種村二段、万波二段、井澤四段

プロ棋士との指導碁の様子

カザフスタンの日本人抑留者の墓で、献花と植樹

カザフスタンを訪問した福田社長が、9月1日、アルマトイにある日本人墓地を訪れ、現地駐在の日本人の方々と一緒に、献花と植樹式に参加しました。

戦後、約50万の日本人将兵がシベリア、中央アジア、コーカサスなどに抑留されました。カザフスタンには約5万9千人が抑留され、ダム建設、道路工事、建物建設などに従事しましたが、事故や病気で約1,500人が亡くなられ、アルマトイには200名が埋葬されたそうです。

福田が訪れた墓地は、市のはずれの森の中にあり、無記名の四角いコンクリート板が並び、約100名の遺骨が埋められており、今も身元は分かっていません。この日本人墓地は、これまでカザフスタンの人たちが守ってきましたが、雑草が生い茂り、荒れていました。そうした中、アルマトイを訪問した福田が日本人墓地の改修を提案し、当社と豊田通商（株）様、日本人会の方々などが寄付を行い、2011年11月に改修工事が完了しました。

供養式には、日本大使館・アルマトイ駐在官事務所の松崎潔公使をはじめ、アルマトイに駐在されている日本人会や日本商工会の皆さんなど約20名が参加。墓地に献花するとともに、改修工事の完成を記念して桜の木の植樹も行いました。

桜の木を植樹する様子

献花する福田

敷地内に建てられた石碑

墓石を前に鎮魂の祈りを捧げる

センコー株式会社

お問い合わせ先

センコー株式会社　社長室 広報・IRグループ

〒531-6115
大阪市北区大淀中1-1-30-1500　梅田スカイビル タワーウエスト15F
TEL.06-6440-5156　FAX.06-6440-5148
URL　http://www.senko.co.jp

ECO-PULP エコパルプ　VEGETABLE OIL INK

この報告書は、環境への配慮のため、用紙には無塩素漂白のエコパルプを、また印刷には植物油インキを使用しております。

UD FONT　見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

2013年6月発行